

令和4年度

# 事業報告書

自 令和 4年 4月 1日

至 令和 5年 3月31日

社会福祉法人 津野町社会福祉協議会

## 事業実績の概要

新型コロナウイルス感染症による影響を受けたものの、地域共生社会の実現に向けた包括的な支援と多様な参加・協働による事業を推進しました。

介護、障害、子ども、困窮などの相談を本人・世帯の属性にかかわらず受け止める「断らない相談支援」、社会との関係を再構築する「参加支援」、地域において多様なつながりが育つことを支援する「地域づくりに向けた支援」をそれぞれの事業を通じて一体的に実施しました。

### ＜ 令和4年度重点的な取り組みに関する評価 ＞

#### 1. 福祉委員活動のしくみ強化

福祉委員が地域に関心を持ち、小地域での見守り支援者として活動してもらえるように「見守る・知らせる・つながる」を合言葉に福祉委員の役割を伝達しました。

民生児童委員や社協の地域担当職員と連携した福祉委員活動が少しずつでも広がっていくよう今後も継続して取り組む必要性を感じました。

#### 2. 日常生活圏域単位での小地域福祉活動の展開

3人の地域担当職員が地域住民や地域組織と協働してそれぞれの地域に応じた福祉活動を推進しました。また、地域支援と個別支援について検討するプロ会により職員間の意識共有を図り、事業展開の方向性を確認しました。

#### 3. あったかふれあいセンターの拠点機能の強化

あったかふれあいセンターの2か所の拠点が地域に開かれた場となり、交流やつながりが生まれ、地域コミュニティが活性化するように取り組みました。

幅広い住民の皆さんからの声が集まる運営協議会を開催し、そこでの意見をもとにプランを作成。夏休み期間中の子どもを対象としたプログラムでは、地域の方が先生役となり、世代を超えた交流や共同活動が行われ、お互いに学び、支え合う姿が見られました。

#### 4. 生活困窮者の社会的孤立等の課題解決に対応する伴走型支援の実施

地域社会とのつながりが弱く生きづらさを抱える地域住民の生活課題を受け止め、多様な関係機関と連携して自立に向けた支援に取り組みました。個々のニーズや要望に合わせた個別化された支援、一時的ではなくどこまでも寄り添う伴走型支援を心掛け、信頼関係の強化を図りました。

## 1. 法人基盤整備・強化

### (1) 評議員、役員組織運営

#### ■評議員会

法人運営の基本ルール、体制の決定と事後的な監督を行う議決機関として、定められた事項について決議を行うとともに、地域課題について積極的な意見交換を行った。

#### <評議員会開催状況>

開催日 場所	会議の名称 出席者数	議 題 及 び 内 容
令和4年 6月21日(火)  津野町総合保健 福祉センター	<b>第1回(定時) 評議員会</b> 評議員 10名  (会長、事務局3名)	〈議案〉 ①令和3年度事業報告 ②令和3年度収支決算  〈協議・報告〉 ・令和4年度第1回理事会報告
令和4年 12月26日(月)  津野町老人福祉 センター	<b>第2回評議員会</b> 評議員 7名  (会長、事務局3名)	〈議案〉 ①令和4年度第1次補正予算  〈協議・報告〉 ・令和4年度前期会長職務執行状況報告 ・役職員町内視察研修及び令和4年度第2回 理事会報告 ・令和4年度第3回理事会報告
令和5年 3月22日(水)  津野町総合保健 福祉センター	<b>第3回評議員会</b> 評議員 11名  (会長、事務局3名)	〈議案〉 ①令和4年度第2次補正予算 ②令和5年度事業計画 ③令和5年度収支予算  〈協議・報告〉 ・令和4年度第4回理事会報告

## ■理事会

法人の意思決定機関として、事業経営を行った。理事会には、可能な範囲で正職員も参加し、役職員が一体となって課題意識の共有を図った。

また、10月には役職員が町内をバスで巡る視察研修を行い、地域担当職員の説明のもと各地区の状況や特長を共有するとともに、後の振り返りでそれぞれの学びを深めた。

### <理事会開催状況>

開催日 場 所	会議の名称 出席者数	議 題 及 び 内 容
令和4年 6月3日（金）  津野町老人福祉 センター	<b>第1回理事会</b>  理事 7名 監事 2名  (事務局 5名)	<p>&lt;議案&gt;</p> <p>①令和3年度事業報告</p> <p>②令和3年度収支決算</p> <p>③給与並びに旅費等規程及び非常勤職員給与並びに旅費等規程の一部改正</p> <p>④どんぐり農園グリーネ運営規程の一部改正</p> <p>⑤基準該当訪問入浴介護事業所運営規程の一部改正</p> <p>⑥指定訪問介護事業所の廃止及び基準該当訪問介護事業所の開設</p> <p>⑦基準該当訪問介護事業運営規程及び基準該当介護予防訪問介護事業運営規程の制定</p> <p>⑧基準該当居宅介護及び重度訪問介護事業運営規程の制定</p> <p>⑨ボランティア活動・福祉教育推進事業助成金交付対象事業の承認</p> <p>⑩評議員会の招集</p>
令和4年 10月26日（水）  津野町総合保健 福祉センター	<b>第2回理事会</b>  理事 5名 監事 2名  (事務局 6名)	<p>&lt;協議・報告&gt;</p> <p>・会長職務執行状況報告</p> <p>・訪問介護事業所運営指導結果報告</p> <p>・日常生活自立支援事業現地調査報告</p> <p>・災害時初期行動計画、災害ボランティアセンター運営マニュアル作成経過報告</p> <p>・役職員町内視察研修の振り返り</p>

<p>令和4年 12月15日(木)</p> <p>津野町老人福祉 センター</p>	<p><b>第3回理事会</b></p> <p>理事 8名 監事 2名</p> <p>(事務局 7名)</p>	<p>&lt;議案&gt;</p> <p>①給与並びに旅費等規程及び非常勤職員給与 並びに旅費等規程の一部改正</p> <p>②令和4年度第1次補正予算</p> <p>③評議員会の招集</p> <p>&lt;協議・報告&gt;</p> <p>・歳末ふれあい特別弁当</p>
<p>令和5年 3月14日(火)</p> <p>津野町総合保健 福祉センター</p>	<p><b>第4回理事会</b></p> <p>理事 8名 監事 2名</p> <p>(事務局 6名)</p>	<p>&lt;議案&gt;</p> <p>①令和4年度第2次補正予算</p> <p>②令和5年度事業計画</p> <p>③令和5年度収支予算</p> <p>④第三者委員の選任</p> <p>⑤事務局長の選任</p> <p>⑥評議員会の招集</p> <p>&lt;協議・報告&gt;</p> <p>・会長職務執行状況報告</p> <p>・作業所里楽の喫茶営業について</p> <p>・災害時職員初期行動計画について</p>

## ■監査

監事は、令和3年度事業及び会計監査を実施し、指摘事項を会長及び事務局へ告げた。同時に監査報告書を作成し、第1回理事会において監査報告を行った。また、理事の職務執行状況を監査する立場から、全ての理事会に出席し意見を述べた。

### <定例監査>

実施日：令和4年5月24日(火)

場 所：津野町総合保健福祉センター「里楽」

監査項目：令和3年度事業実績報告書  
令和3年度計算書類及び関係書類

### <中間監査>

実施日：令和4年11月8日(火)

場 所：津野町総合保健福祉センター「里楽」

監査項目：令和4年度前期事業及び会計処理

## ■評議員選任・解任委員会

開催の必要性がなく、委員会は招集されなかった。

## (2) 苦情解決体制

苦情解決について適切な対応を推進する第三者委員の任期が令和5年3月31日で満了となるため、第4回理事会において令和5年4月1日付で任命する委員3名を選任した。任期は、令和8年3月31日までの3年間。

福祉サービス利用者等からの苦情として対応する案件はなかった。

## (3) 住民会員制度

長引く新型コロナウイルスの影響に配慮しながら、会員募集を行った。

個人会員については、7月に町内全域の成人を対象に会員加入のお願いをし、地区長等のご協力により会費を納めていただいた。

また、特別会員についても町内の企業や団体等に働きかけ、温かいご理解とご協力のもと40団体に加入いただいた。

加入状況、使途については、社協だより「あくしゅ」に掲載し、お知らせした。

## ■個人会員

	会員数 (人)	戸数 (戸)	口数 (口)	金額 (円)
東地区	1,066	969	1,076	538,000
西地区	529	351	535	257,800
合 計	1,595	1,320	1,611	795,800
※前年度	1,670	1,602	1,691	852,900

## ■特別会員

	団体数 (団体)	口数 (口)	金額 (円)
町 内	40	43	215,000
※前年度	45	47	235,000

## (4) 事業資金の適正管理運用、情報の公表

内部牽制機能が十分に働くように留意するとともに、社会福祉法人会計基準及び本会経理規程に基づく適正な資金管理と経理事務を心掛けた。

閲覧対象となる書類や情報公開が必要な事項については、帳票又はインターネットにより情報を公表した。また、ホームページや社協だよりを活用し、地域福祉活動を広報した。

## (5) 職員体制と事業推進機能

本所、西支所及び就労継続支援事業所にそれぞれ職員を配置し、業務にあたった。複数の事業でパート職員等が欠員となる時期もあったが、正職員を中心に人員不足をカバーしながら、各種事業を推進した。

また、年度末をもって事務局長が定年退職することに伴い、正職員の募集を行い1名を採用内定するとともに、第4回理事会において令和5年4月1日付で任命する事務局長を選任した。

### <令和5年3月末現在の職員体制>

本 所	事務局長	1名	西 支 所	支所長【兼務】	(1名)
	支所長、生活困窮主任相談員兼務			主監	1名
	事務局次長	1名	就 労 継 続 支 援 事 業 所	あったかふれあいセンターコーディネーター兼務	
	就労継続支援事業所管理者、日常生活自立支援事業専門員兼務			あったかふれあいセンター職員	
	主監	1名		(非常勤フル) 2名	
	地域活動支援センター施設長、生活困窮相談支援員兼務			配食配達員(パート) 2名	
	主任	1名		サロン送迎(パート) 1名	
	日常生活自立支援事業専門員兼務			生活支援員(パート) 1名	
	主任	1名		管理者【兼務】 (1名)	
	訪問介護事業所管理者・サービス提供責任者			サービス管理責任者(非常勤フル) 1名	
	主事	1名		目標工賃達成指導員(非常勤フル) 1名	
	福祉事業職員(非常勤フル)	1名		[どんぐり農園]	
	訪問介護員(非常勤フル)	1名		職業指導員(非常勤フル) 2名	
	あったかふれあいセンター職員(非常勤フル)	3名		生活支援員(パート) 1名	
地域活動支援センター支援員(非常勤フル)	1名	[作業所里楽]			
配食配達員(パート)	3名	生活支援員(非常勤フル) 1名			
訪問介護員(パート)	3名	職業指導員(非常勤フル) 1名			
生活支援員(パート)	1名	送迎運転(パート) 1名			
業務内容		正職員 ＜按分＞	非常勤フル ＜実人員＞	パート ＜実人員＞	
法人運営・地域福祉事業		5.5名	7名	8名	
介護事業		1.0名	1名	3名	
就労継続支援事業		0.5名	6名	2名	
計		7.0名	14名	13名	

## 2. 啓発・福祉教育

### (1) 社協だより「あくしゅ」、社協リーフレットの発行

本会の組織や事業報告、経営状況を公開し、また、福祉情報、地域福祉活動を地域住民に知っていただくために社協だより「あくしゅ」を発行した。年間6回、奇数月に発行し、A4サイズ、全8ページカラー印刷の体裁で作成。地区長のご協力のもと全戸配布を行うとともに、町内の金融機関や公共施設、交流施設等にも配置させていただいた。ホームページにも掲載し、広く情報を発信した。

また、7月の社協会員募集時には、社協の事業概要を紹介したリーフレット“こんにちは社会福祉協議会です”を作成し、全戸に配布した。裏面には、「お守りカード」を刷り込み、カードの周知と必要な世帯での活用を目指した。

### (2) 福祉座談会

民生児童委員、福祉委員、地区長に呼びかけ町内10会場で福祉座談会を開催した。福祉委員の活動についての説明や地域での活動事例を紹介。地域の実情に応じた福祉委員の役割について考えてもらうためにグループワークを行った。

#### <福祉座談会の開催状況>

開催日	対象地域	民生委員	福祉委員	地区長	その他	参加 実人数	社協
4月21日	床鍋地区	1	5	1	2	9	2
4月27日	葉山小学校区 (姫野々～永野)	3	7	8	0	18	3
4月28日	葉山小学校区 (新土居～西谷)	3	8	3	0	14	3
	北川地区	2	5	2	0	9	2
5月2日	宮木地区	1	2	1	0	3	3
5月3日	高野地区	1	7	1	5	14	2
5月11日	旧精華小学校区	5	5	10	0	18	3
	旧郷小学校区	2	0	2	1	5	2
5月12日	旧船戸小学校区	1	4	5	0	10	2
6月28日	旧白石小学校区	1	6	6	2	16	2
合計		20	49	39	10	116	24



### (3) 子ども福祉・ボランティア活動

#### ■ボランティア活動・福祉教育推進事業助成金交付事業

津野町内の小中学校が行う地域でのボランティア活動や福祉教育・伝承活動の取り組みを支援することを目的として、本会の会費を活用して助成を行った。

#### <令和4年度助成の概要>

学校名	事業内容
葉山小学校	地域との連携交流事業（野菜づくり、もちつき、花植え活動）
精華小学校	栽培活動、地域サロンとの交流事業、いきいき学習発表会、ふれあいもちつき、環境整備、クラブボランティアとの活動交流、高齢者への年賀状作成、書道・習字教室
中央小学校	お茶づくり、米づくり
葉山中学校	高齢者への年賀状書き、地域清掃ボランティア活動
東津野中学校	神楽の伝承・発表会、合同学習会

#### ■福祉教育・ボランティア学習の推進

津野町内の認定こども園及び小中学校のコミュニティスクール、地域学校協働本部の取り組みに参加し、学校及び関係者と連携して福祉活動に取り組んだ。学校関係会議、教職員との打ち合わせの実施及び参加状況については、次のとおり。

*にじいろ園	6回
*さくらんぼ園	3回
*葉山小学校	10回
*精華小学校	5回
*中央小学校	5回
*葉山中学校	8回
*東津野中学校	5回

### 3. 住民主体の福祉コミュニティづくり

#### (1) 福祉委員活動

東地区 95 名、西地区 70 名の福祉委員が、各地域で活動された。

民生児童委員と連携した地域での見守り活動の取り組みが進むよう福祉座談会や福祉パトロールへの参加・協力を呼びかけ、顔の見える関係づくりの場を設定した。

また、1 月には新たに地区長より推薦を受けた福祉委員に委嘱状を交付し、3 月には新任を含む全福祉委員を対象に福祉委員・民生児童委員合同研修会を開催した。

##### <福祉委員・民生児童委員合同研修会>

開催日：令和 5 年 3 月 8 日（水）

場所：津野町福祉交流センター

内容：①説明 「福祉委員 ～見守る・知らせる・つながる～」

説明：津野町社会福祉協議会

②寸劇 「津野町での見守り活動」

③講演 「住民による見守り活動」

講師：関西学院大学 人間福祉学部 社会福祉学科

教授 藤井 博志 先生

参加者：福祉委員 43 名、民生児童委員 20 名

#### (2) 地域サロン

5 月に活動自粛依頼期間があったものの、各地区の地域性やニーズに合わせたサロン活動が世話人や地域の創意工夫のもと実施された。

地域担当職員は、活動を再開したサロンや新たに誕生したサロンのなど世話人への丁寧な支援を心掛け、訪問等を定期的に行った。また、世話人同士がつながることで、地区を超えたサロン間の交流も見られた。

##### <地域サロンの開催状況>

サロン数：34 か所（東地区 23 か所、西地区 11 か所）

※前年度 30 か所

実施回数：延 749 回（東地区 545 回、西地区 204 回）

※前年度 513 回

参加人数：延 5,840 人（東地区 4,205 人、西地区 1,635 人）

※前年度 3,970 人

## ■世話人連絡会

サロン活動記録簿や新たな助成金ルールの説明、健康マイレージについて町と協力し世話人に説明を行った。また、各サロンの取り組みを発表してもらうなど情報交換を行った。

### <サロン世話人連絡会>

開 催 日：令和4年4月4日（月）

参 加 者：①昼の部 12サロン 20人

②夜の部 13サロン 18人

## ■お茶会、世話人研修会、サロン対抗輪投げ大会

新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、中止した。

## ■サロン決算大相談会

地域サロンに対する町助成金の活用方法や助成金額について問い合わせが多いことから、助成金使途報告書作成時期に合わせ、3日間個別相談会を開催し、各サロンの書類作成業務を支援した。実施日時については、次のとおり。

\*令和4年4月5日（火） 17時～19時

\*令和4年4月6日（水） 14時～16時

\*令和4年4月7日（木） 9時～11時

## （3）福祉パトロールと安心・安全見守り台帳

町内の70歳以上の一人暮らし高齢者や75歳以上の高齢夫婦世帯等を対象に福祉パトロールを実施した。隣近所や地区での見守り活動をより身近な範囲で行っていくためにエリアを小地域に絞って開催。民生児童委員を中心に、地区長や福祉委員、集落活動センターの協力を得ながら訪問調査を行った。

パトロール実施後には、安心・安全見守り台帳の情報から「お守りカード」を作成し、495世帯、629人にお届けした。

### <福祉パトロールの実施形態と協力者数>

○民生委員単独	8地区	8人
○民生委員＋福祉委員	3地区	15人
○民生委員＋福祉委員＋地区長	3地区	39人
○集落活動センターと協働	白石地区	18人
	船戸地区	9人
	郷地区	6人

#### (4) あったかふれあいセンター事業

町より受託し、専任の非常勤職員 5 名と兼務の正職員 1 名（0.85 人役）を基本とする体制で 2 か所の拠点で事業を実施した。年度当初は非常勤職員が 2 名欠員していたが、4 月、6 月に新しいスタッフを採用することができた。その後も退職により欠員ができる期間もあったが、現場スタッフが足りないときには、他部門の職員が送迎等の業務を補完した。

拠点では、誰もが気軽に来られるような雰囲気づくりに努めるとともに、運営協議会でご意見をいただきながら、子どもから高齢者まで幅広い世代の個々のニーズに合わせた事業を企画・実施したことで利用者の増加につながった。

3 か所サテライトは、集いを中心に実施。新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、マスクの着用や体温計測等利用のルールを定め、3 密の回避や衛生管理に配慮した。

また、毎月、パンフレットを作成し、各地区への回覧することで広く住民に事業の周知を図った。

#### [風のさと]

##### <「集い」の実績>

分類・名称	開所 日数	利用者数（延人数）					※前年度
		高齢者	障がい者	子ども	その他	合計	
拠 点	231	363	20	527	48	958	536
せんだん	46	722	6	2	7	737	684
鶴松の風	46	781	0	0	7	788	1,022
合 計		1,866	26	529	62	2,483	2,222

##### <機能別利用者数（延人数）>

集い（再掲）	送迎	相談	訪問	つなぎ	生活支援
2,483	1,162	17	418	92	504

[星のさと]

<「集い」の実績>

分類・名称	開所 日数	利用者数（延人数）					※前年度
		高齢者	障がい者	子ども	その他	合計	
拠 点	229	167	10	531	100	808	466
くつろぎ家	45	587	0	5	8	600	671
いちょうの郷	40	524	0	0	8	532	473
いらずのさと	40	410	0	12	39	461	509
合計		1,688	10	548	155	2,401	2,119

<機能別利用者数（延人数）>

集い（再掲）	送迎	相談	訪問	つなぎ	生活支援
2,401	746	32	692	26	233

[会議の開催回数]

定例会	運営検討会	ケース検討会	合同スタッフ会	運営協議会
2	2	2	3	2

（５）小地域福祉活動

住民主体の地域福祉活動を推進していくため、小学校区単位で地域担当職員を配置し、コミュニティソーシャルワーカーとして小地域での福祉活動に力を入れた。活動にあたっては、集落活動センターや自治会など地域の活動拠点と連携して取り組んだ。

また、職員のスキルアップや一体感を持って地域支援を展開していくために各々の活動等の情報交換を行うプロ会を開催した。

## 4. ボランティア活動と助け合いのしくみ

### (1) ボランティア活動

#### ■ボランティア登録

ボランティア活動保険や行事用保険の加入手続き及び活動を希望する人、団体の登録を行った。

##### <個人ボランティアの登録状況>

登録者：98人（東地区 42人、西地区 56人）

##### <ボランティア活動保険の加入状況>

加入者：11団体 173人

##### <ボランティア行事用保険の取扱状況>

手続件数：24件

#### ■ボランティア連絡協議会事務局

町内のボランティア関連団体の連絡調整を図るため、事務局を受け持った。5月に代表者会を開催したほか、互いの活動を知るための情報誌作成に向けて各団体の取り組みを取材した。

また、ボランティア活動保険に関するお知らせを各団体へ送付し、円滑な加入手続きを進めた。令和4年度の加入団体は、14団体だった。

#### ■24時間テレビ「愛は地球を救う」チャリティキャンペーン

令和4年度も新型コロナウイルス感染予防のため、高知放送よりイベント等の自粛要請があり、募金の受付のみを行った。事務局としてテレビ局との調整、募金の集計・送金等を行った。

の登録を行った。

##### <募金受付の実績>

受付期間：令和4年8月2日（火）～8月31日（水）

受付場所：①東会場 社協本所（津野町総合保健福祉センター「里楽」）

②西会場 社協西支所（津野町老人福祉センター）

募金総額：98,754円

## (2) 住民参加型助け合い制度「ほっとサービス」

一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯、障がいのある方等の暮らしの支援として住民参加によるサービスを実施した。

### <ほっとサービスの実施状況>

受付件数：10 件 実施件数：10 件（東地区 2 件、西地区 8 件）

協力会員：延 16 人 稼働時間数：延 26.5 時間

内容：①ゴミの分別、粗大ゴミの処理 5 件  
②庭の草引き 2 件  
③庭木のせん定 2 件  
④部屋の掃除 1 件

## (3) ふれあい配食サービス

ボランティア、民生児童委員の全面的な協力を得て、一人暮らし高齢者、高齢者のみ世帯等で希望される方に手作りのお弁当をお届けした。東地区では毎月 4 回、西地区では毎月 3 回実施。サービス利用者とボランティアとのふれあいを大切にし、配達時には、話し相手や安否確認などにより心の交流を図った。

また、多くの住民の方から食材料の提供があり、陰から事業を支えていただく大きな力となった。

### <ふれあい配食の実績>

	配食数 (食)	期首利用者数 (人)	調理ボランティア (延人数)	配達ボランティア (延人数)
東地区	2,974	70	286	368
西地区	2,027	76	223	241
合計	5,001	146	509	609
※前年度	4,532	134	531	575

## (4) 災害ボランティアセンター事業

災害ボランティアセンターについての見識を深めるため 6 月に職員研修を実施。災害時にセンターを立ち上げ、円滑に運営できるよう職員会で運営マニュアルの見直しを行ったが、完成には至らなかった。

災害ボランティアセンター運営会議や地域での模擬訓練については、新型コロナウイルスの感染状況等により実施できなかった。

## 5. 生活課題に向き合う総合相談

### (1) 生活困窮者自立相談支援事業

#### ■自立相談支援事業

高知県より自立相談支援事業を受託し、事業を実施した。

地域住民からの生活課題に対する様々な相談に応じるとともに、複合的かつ困難な課題を抱える相談者にも寄り添いながら、関係機関と連携して自立に向けた支援に取り組んだ。

支援においては、相談者が抱える課題や生活状況をしっかりと把握し、本人の意思を尊重しながらも、個々の置かれた状況に合わせた支援を心掛けた。

#### <令和4年度の実績概要>

人員体制	主任相談支援員 1名（※兼務） 相談支援員 1名（※兼務）
新規相談	受付件数 17件 相談内容 ○収入、生活費、債務処理等金銭に関すること 6件 ○仕事探し、就労に関すること 1件 ○引きこもり、不登校 1件 ○介護に関すること 4件 ○家族関係、家族のこと 3件 ○医療費に関すること 1件 ○その他 1件
プラン策定等	初回プラン策定件数 2件 再プラン策定及び評価延件数 12件 プラン終了件数 6件
相談支援	相談者数 延 220人 支援件数 ○電話相談 118件 ○訪問・同行支援 242件 ○面談 85件 ○支援調整会議でのプラン 8件 ○関係機関との協議、代行支援等 115件



## ■法律講演会・弁護士相談会

住民が法律を身近に感じ問題解決の知識を得ることと、弁護士相談会の啓発のために、法律講演会を開催した。

また、法律に関する専門的な対応が必要なケースなどの相談の場として、法テラス須崎法律事務所及び須崎ひまわり基金法律事務所の協力を得て、個別相談会を実施した。

### <法律講演会>

開 催 日：令和4年10月14日（金）

内 容：講演「土地の相続入門～法律が変わる!?やるべき事は？」

講師：法テラス須崎法律事務所 弁護士 小野 歩 先生

参 加 者：21 人

### <弁護士相談会>

#### 【第1回】

実 施 日：令和4年5月17日（火）

場 所：津野町老人福祉センター

相談件数：2 件

対 応 者：須崎ひまわり基金法律事務所 三上 翔平 弁護士

#### 【第2回】

実 施 日：令和4年8月16日（火）

場 所：津野町総合保健福祉センター「里楽」

相談件数：3 件

対 応 者：法テラス須崎法律事務所 小野 歩 弁護士

#### 【第3回】

実 施 日：令和4年11月15日（火）

場 所：津野町老人福祉センター

相談件数：3 件

対 応 者：須崎ひまわり基金法律事務所 三上 翔平 弁護士

#### 【第4回】

実 施 日：令和5年2月21日（火）

場 所：津野町総合保健福祉センター「里楽」

相談件数：3 件

対 応 者：法テラス須崎法律事務所 西浦 嘉博 弁護士

### ■若者サポート会議

ひきこもり傾向のある若者支援のために、若者サポートステーション、教育委員会、町健康福祉課・介護福祉課と協力体制をとり、定期的（年４回）に関係者会議を開催した。

また、ひきこもりの理解と相談窓口の周知のための取組みとしてひきこもり講演会を開催。ひきこもりの状態にある人の背景や思いの多様性を学び、理解を深めた。

#### <ひきこもり講演会>

開 催 日：令和４年１１月２２日（火）

内 容：①講演 「知る」からはじまるひきこもり支援

講師：高知県ひきこもり地域支援センター 相談員

②ひきこもり経験者の体験談

情報提供：ひきこもりピアサポーター ４名

参 加 者：１２名

### ■フードドライブ活動

県下で展開される食料支援のための活動に参加し、住民への呼びかけを「あくしゅ」や本所、西支所の窓口で行った。また、住民から多くの食料品のご寄付をいただき、必要な方への食料提供活動を行った。食料支援の実績は、１９件（７名）だった。

### ■ひきこもり支援

民生児童委員や地域、関係機関からの情報等によりひきこもりの状態にある方を把握し、接点ができたひきこもり当事者及び家族への支援を行った。

前年度から関わっている３件のケースについて、継続して支援した。

## (2) 福祉サービス利用援助事業

日常生活を送る上で、自分ひとりでは判断することが難しい高齢者や障がい者が安心して生活が送れるように、福祉サービス利用援助と日常的な金銭管理、暮らしのアドバイスを行った。

支援にあたっては、利用者の自己決定を尊重しながら、専門員と生活支援員が連携し、事業を実施することにより利用者の在宅生活を支援した。

### <令和4年度支援等の状況>

令和4年度末における契約件数	3件
生活支援員による支援回数	40回(41.5時間)
専門員による直接支援回数	13回(16.5時間)
相談件数	81件

## (3) 生活福祉資金貸付相談事業

新型コロナウイルス感染症の影響により休業や失業で生活に困っている世帯へ緊急小口資金、総合支援資金特例貸付の相談、申請援助を行った。

特例貸付の期間が9月まで延長される一方、令和5年1月からは償還が始まった。償還が困難な方からの相談に対しては、償還免除の申請や償還金額の月額変更手続き等を含む相談支援を行った。

### <令和4年度の状況>

令和4年度末における借入件数	66件
新規貸付件数	3件
貸付内訳	
○緊急小口資金	1件
○緊急小口資金(特例貸付)	1件
○総合支援資金(特例貸付)	1件
償還免除手続件数	9件
償還月額犯行手続件数	2件

## 6. 在宅介護・在宅支援

### (1) 介護保険サービス「訪問介護事業」

居宅サービス計画に沿った訪問介護計画を作成し、利用者とのコミュニケーションを大切にしながら計画に基づくサービスを提供した。ケース検討会を定期的  
に開催し、感染予防対策の確認や必要な情報を共有することで、新型コロナウイルス感染症にも対応しながら、統一したサービスを提供することができた。

また、内部研修として虐待防止研修会を実施。地域包括支援センター主催の在宅医療・介護連携合同研修会に参加したほか、リモートにより外部研修も受講した。

令和4年9月1日からは基準該当事業所となった。

#### <利用実績>

月	利用者数（実人数）		稼働ヘルパー数 （実人員）
	4年度	※前年度	
4月	11	9	5
5月	11	9	5
6月	10	8	5
7月	10	7	5
8月	10	9	5
9月	12	9	5
10月	11	9	5
11月	11	10	5
12月	12	10	5
1月	13	9	5
2月	12	10	5
3月	11	11	5
合計	134	110	60

＜サービス内容別提供量＞

サービス内容	提供回数（回）		時間数（時間）	
	４年度	※前年度	４年度	※前年度
身体介護	５９４	４７８	４１４.５	３２２.０
生活援助	８	０	８.０	０.０
身体＋生活	１５６	８９	１５６.０	８９.０
介護予防・総合	２９８	２３５	２９８.０	２３５.０
合計	１，０５６	８０２	８７６.５	６４６.０

（２）介護保険サービス「訪問入浴介護事業」

居宅介護支援事業所や利用者家族と情報共有することにより、利用者の居宅で安心、安全に入浴サービスを提供した。

＜利用実績＞

利用者数 ４人

サービス提供回数 ９０回 ※前年度 １５５回

（３）福祉用具貸与と介護用品のあっせん

通院時や外出時など、短期利用として１０日以内で貸し出す車いすについては、無料で貸与した。車いすの短期利用の需要が増えており、住民の希望に添えるよう短期貸出用として新たに２台の車いすを購入した。

また、介護用品に関する問い合わせなどの相談があったときには、販売業者と連絡を取りながら対応した。

＜利用実績＞

種別	利用者数			
	長期	※前年度	短期	※前年度
電動ベッド	１９	２１	０	１
車いす	１３	８	２３	２２

#### (4) 生活支援型配食サービス

町からの受託事業として実施。ケア調整会議で必要と認められた方へ昼食を配達した。町内全域を対象とする年中無休のサービスとして、普通食は町内の飲食業者、特別食は特別養護老人ホームに調理を委託し、配達は本会の職員で行った。

安否確認や必要がある場合には、関係機関への連絡等、在宅生活の継続を支援した。

##### <利用実績>

区分	利用者数（人）		提供食数（食）	
	4 年度	※前年度	4 年度	※前年度
特別食	6	5	1, 1 6 7	9 9 7
普通食	1 5	1 6	2, 2 7 8	1, 8 3 0
合計	2 1	2 1	3, 4 4 5	2, 8 2 7

## 7. 障がい者地域生活支援

### (1) 地域活動支援センター

町内の障がいのある住民が交流活動やレクレーションを通じて、地域との交流や仲間づくりを行うために、「わきあいあい広場」、「わきあいあい広場ミニ」及び「地活ROOM」を実施した。利用者に合わせたサポートを行いながら、生活訓練などを実施した。

また、生活相談在宅訪問事業や障がい児長期休暇支援事業にも取り組んだ。

#### ■わきあいあい広場

町内の障がい者の交流の場として毎月実施した。5月、8月は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を見送った。

参加を通して、社会生活の幅が広がり、日常生活の中でも声掛けがきる仲間となってきた。

#### <実施状況>

実施日	内 容	参加者数（人）	
		障がい者	ボランティア 職員
4月22日	調理、お菓子作り	6	3
6月20日	調理、音楽療法	6	4
7月 8日	ピザ焼き体験、室内ゲーム	2	4
9月21日	そば打ち体験、スポーツ体験	3	3
10月13日	調理、室内ゲーム	2	4
11月17日	調理、天狗高原散策	5	2
12月 7日	買い物、クリスマス会	8	5
1月17日	調理、室内ゲーム	4	6
2月16日	調理、お菓子作り	2	7
3月22日	調理、次年度の話し合い、花見	5	6
合計		43	44
※前年度		60	48

## ■わきあいあい広場ミニ

日中の居場所を確保し、自分のペースで社会的な体験ができる場として実施。集団の中では対応が難しい個性と障害特性への配慮をしつつ生活課題に向き合い、買い物や手芸など利用者主体の活動となるよう個別支援を行った。

### <実施状況>

実施月〔回数〕	内 容	参加者数 (人)
4 月〔3 回〕	①手芸、②スマホ教室、③買い物	3
5 月〔1 回〕	①スマホ教室	2
6 月〔3 回〕	①買い物、②ジム体操、③スマホ教室	4
7 月〔4 回〕	①手芸、②買い物、③塗り絵、④パソコン・スマホ教室	6
8 月〔3 回〕	①手芸、②買い物、③片岡邸見学	3
9 月〔1 回〕	①ウォーキング	3
10 月〔1 回〕	①プラネタリウム・高原散策	4
11 月〔3 回〕	①買い物、②押し花づくり。③スマホ教室	3
12 月〔2 回〕	①手芸、②買い物	2
2 月〔4 回〕	①モルック体験、②手芸、③買い物、④スマホ教室	4
3 月〔2 回〕	①手芸、②パソコン・スマホ教室	2
合計〔27 回〕		36
※前年度		76



## ■地活ROOM（座談）

新たな取り組みとして、利用者が時間を気にせず、ゆっくりと話ができる場づくりを心掛け、座談を中心に簡単な作業を行った。

### <実施状況>

実施月〔回数〕	内 容	参加者数 (人)
9 月〔1 回〕	座談	1
1 0 月〔2 回〕	座談、文化祭作品準備、配食手伝い	3
1 1 月〔2 回〕	座談、パソコン教室	2
1 2 月〔2 回〕	座談、クリスマス会準備、歳末配食手伝い、パソコン教室	2
1 月〔2 回〕	座談、手芸	2
2 月〔1 回〕	座談	1
3 月〔2 回〕	座談、手芸、スマホ教室	3
合計〔1 2 回〕		1 4

## ■生活相談事業

在宅で暮らされている障がいのある方々の自宅を訪問し、当事者や家族と会話をしながら、困りごとや生活課題の把握に努めた。

また、「地活ROOM」の場や、面談希望のあった方の相談に応じ、必要なケースについては、町や保健師につないだ。

<相談実績>	<相談・支援内容の内訳>
相談者実人数 9 人	○障害や病状の理解に関すること 1 件
○訪問 4 件	○健康・医療に関すること 24 件
○来所 54 件	○不安の解消・情緒安定に関すること 3 件
○電話 19 件	○家族関係・人間関係に関すること 22 件
○同行 30 件	○生活技術に関すること 26 件
○その他 21 件	○就労に関すること 10 件
	○社会参加・余暇活動に関すること 7 件
	○その他 60 件

## ■障害児長期休暇支援事業

保健師等町関係者との協議や関係学校、保護者と連絡をとりながら、子どもたちが楽しい休暇を送れるよう支援した。地域住民、支援ボランティアの協力を得て、子どもたちに様々な体験や遊びの場を提供し、楽しい休暇を過ごしてもらうことができた。

### <実施状況>

実施日	内 容	参加者数（人）		
		児童 生徒	ボラン ティア	職員 (町・社協)
7月22日	宿題、お出掛け（天狗高原）、レクリエーション	5	0	4
25日	宿題、書道教室、レクリエーション	10	2	4
27日	宿題、ピザ焼き体験	6	3	7
29日		2	1	3
8月2日	宿題、DVD鑑賞、レクリエーション、音楽療法	9	0	6
5日	宿題、お出掛け（天狗高原）、レクリエーション	4	1	5
8日	宿題、魚のつかみどり、工作	11	1	6
10日	宿題、調理実習、歯科教室、陶芸教室	4	1	5
17日		6	1	4
19日	宿題、工作	6	1	4
22日	宿題、工作、室内ゲーム	9	0	7
24日	宿題、読み聞かせ、工作、室内ゲーム	6	0	4
26日	DVD鑑賞	1	0	2
12月27日	宿題、レクリエーション、お正月の飾りづくり	6	1	8
合計		85	12	69
※前年度		93	43	77

## (2) 障害福祉サービス「居宅介護」

在宅生活、地域生活を送るために、利用者の身体機能や心に合わせたサービス提供に努めた。ヘルパー間の情報共有やケース検討の場を持ち、利用者とのコミュニケーションを丁寧に行うことにより、利用者に寄り添ったサービスを提供することができた。

サービスの質を高めるために、町相談支援事業所、サービス関係スタッフとのケース会議に出席した。

令和4年9月1日からは基準該当事業所となった。

### <利用実績>

利用者数	9 人	
サービス提供時間数	502 時間	※前年度 528 時間

## (3) 移動支援事業

外出のための移動に困難がある障がい児・者の日中の地域での自立生活及び社会参加を促すことを目的とする事業で、町より受託し、介護職員による移動支援を行った。

### <利用実績>

利用者数	1 人	
サービス提供日数	4 日	※前年度 8 日
サービス提供時間数	16 時間	※前年度 50 時間

## (4) 日中一時支援事業

障がい児・者を日常的に介護している家族の一時的な休息を目的として支援する事業。町からの委託事業であるが、令和4年度は利用がなかった。

## 8. 就労継続支援（B型）事業所

### （1）事業所経営

障害福祉サービス就労継続支援（B型）事業所として、どんぐり農園グリーン・作業所里楽を一体的に運営した。

新型コロナウイルス感染予防のため、衛生管理に配慮しながら事業所運営を行い、特に全国的な感染拡大期には職員だけでなく、利用者及びそのご家族にも呼びかけクラスターの発生防止に努めた。また、虐待防止・身体拘束適正化検討委員会等により障害者虐待防止に向けての取組みを進めた。

年度を通してスタッフの欠員もあったが、それぞれの職員が業務を補完しながら事業所の運営にあたった。

### （2）福祉事業活動

新規利用者が3名あったが、2名がサービス終了となったため、3月末の利用者実人員は21名（どんぐり農園\_7名、作業所里楽\_14名）。

町相談支援事業所との月2回の連絡会やケース会議等を通じて個人の能力や心理、体調等状況把握を行いながら個別支援計画を作成した。

また、町自立支援協議会やその部会である就労支援部会に出席し、就労に関する情報共有や一般就労への取り組みなどについて情報共有を行った。

#### <利用実績>

月	利用者数 (実人数)	利用者数 (延人数)	内 訳	
			どんぐり農園	作業所里楽
4月	20	311	121	190
5月	20	310	126	184
6月	20	353	140	213
7月	21	331	124	207
8月	20	336	113	223
9月	20	323	120	203
10月	21	324	128	196
11月	20	307	124	183
12月	20	305	119	186
1月	20	285	105	180
2月	20	303	123	180
3月	21	345	139	206
合計	243	3,833	1,482	2,351
※前年度	237	3,949	1,520	2,429

### (3) 生産活動（就労支援）

どんぐり農園では、かおりの里づくり推進会議から注文を受け、タネから花を育て、春と秋に合わせて4万本近くの花苗を出荷した。また、ハナニラを栽培し、直販所を通しての販売や商店・個人への直売りで収益をあげた。さらに、安定した作業需要がある町内の公共施設の清掃などにより利用者の就労支援を行った。令和3年度と比較すると事業収入は減ったものの、経営状況は良好であった。

作業所里楽では、クッキーを中心とした菓子類の製造、喫茶の運営、町内の公共施設の清掃等に取り組んだ。主要な収入源であるクッキーの販売については、コロナ禍による販売促進活動の制限があったが、前年度から引き続き葉山中学校PTAからの定期受注があり、収入は微減であった。しかしながら、里楽プールゾーンの洗濯作業が少なくなったことによる委託料減により、年間売上げは減少した。

## 9. 共同募金事業、日赤事業

### (1) 共同募金、歳末たすけあい募金

共同募金推進計画に基づいてそれぞれ募金活動を行った。

戸別募金では各地区長の全面的な協力で募金活動を実施した。歳末たすけあい運動のイベント募金は行わなかった。

#### <赤い羽根共同募金>

募金実績額：1,144,551 円

本会が受けた助成額：906,000 円

助成を受けて実施した事業：ふれあい配食、福祉パトロール、  
社協だより「あくしゅ」の発行

#### <歳末たすけあい募金>

募金実績額：55,750 円

本会が受けた助成額：55,750 円

助成を受けて実施した事業：歳末特別配食

## (2) 歳末たすけあい助成事業「歳末特別配食」

歳末たすけあい運動として実施した歳末特別配食事業は、新型コロナウイルス感染症予防のため、集落活動センターや地域で活動している団体に調理・配達について協力を依頼。令和4年度は、新たに精華ファミリーの協力を得て、町内を7つのエリアに分けて実施した。

対象者は、高齢者世帯のほか生活困窮等で支援を行っている方や民生児童委員の気になる世帯を加え、計315世帯380人に歳末特別弁当をお届けした。

### <東地区>

実施日	調理・配達拠点	対象者数	ボランティア数
12月16日	精華ファミリー・里楽	70世帯 79人	調理 14人・配達 15人
12月21日	久保川生改・酒蔵	27世帯 34人	調理 5人・配達 4人
12月22日	里楽	72世帯 84人	調理 19人・配達 13人
12月24日	森の巣箱	5世帯 7人	調理 4人・配達 5人

### <西地区>

実施日	調理・配達拠点	対象者数	ボランティア数
12月20日	老人福祉センター	81世帯 100人	調理 17人・配達 11人
12月23日	集活ふなと	35世帯 45人	調理 9人・配達 6人
12月25日	集活奥四万十の郷	25世帯 31人	調理 14人・配達 12人

## (3) 日赤（日本赤十字社）事業

赤十字事業の啓発に努め、その活動資金の募集を5月の「赤十字会員増強月間」に行った。各地区長の協力で次のとおりの実績があった。

### <資金募集活動実績と期末積立金額>

目 標 額：838,000 円

実 績 額：893,800 円

災害積立金：131,806 円

## 10. 福祉団体の活動支援

各団体の事業計画に基づき、役員を中心とした事業運営が円滑に行われるよう支援した。事務局として活動した団体は、次のとおり。

### (1) 民生児童委員協議会 事務局

本会と協働しながら、福祉パトロール、安心安全見守り台帳作成等に主体的に関わり、調査、調整、学習活動等を行った。

毎月の定例会開催や学校訪問の調整、会計事務、各種研修会への参加調整、研修事業調整など事務局業務を行った。

地域の見守り活動では、福祉委員との連携を図るため、福祉委員と協働した福祉パトロールの実施や福祉座談会など福祉委員と民生児童員をつなぐ取り組みを行った。

### (2) 老人クラブ連合会 事務局

事業の計画及び実施に関しては役員を中心に行い、3B体操やグラウンドゴルフ、ボッチャ、ラージボール卓球、ウォーキングなどの健康づくり活動、陶芸教室や老人大学などの教養活動を新型コロナウイルスの感染防止に気をつけながら実施した。

また、事務局として単位クラブとの連絡調整、町や高幡・県の老人クラブ連合会との調整を行った。

### (3) 障がい（児）者連合会 事務局

新型コロナウイルスによる影響で、近年はさまざまな事業が中止となることが多かったが、令和4年度は、総会、バスハイク、クリスマス会と会員が楽しみにしている事業を実施することができた。事務局としては、事業の調整や会計事務等を行った。

### (4) シルバー介護士会「ひだまり」事務局

一人暮らし高齢者等の在宅訪問活動が定期的（月1回）に実施できるよう、会員とともに訪問世帯の調整を行った。